特集3
［東温市］

舞台芸術で豊かな未来を創造する
～アートヴィレッジとうおん構想～

東温市 総務部 企画政策課 地域振興係長 田井 秀一

地方創生の文脈からの「舞台芸術」

人口約3万4千人の東温市に広がる田園の中に、四国・瀬戸内の歴史文化をテーマとしたミュージカルを1年通して上演する「坊っちゃん劇場」がある。この劇場では、俳優をはじめ脚本、演出、音楽、振付など一流の舞台人が滞在し、一つの舞台作品を創っている。

東温市ではこの文化的素地を活かすため、平成29年に「アートヴィレッジとうおん構想」を策定し、舞台芸術の聖地化を目指す取組を官民協働で進めることで、人々が多様で創造的な活動ができるまちを目指すこととした。多様で創造的な考え方は、新しいビジネスや生きる力を育む教育にも繋がってくる。そうして、住むことが楽しく誇らしい「わが町」をつくり、その環境を求めて移住定住が進むという「急がば回れ」の地方創生施策として、10年計画をスタートさせた。

音楽ライブ「音の万華鏡」

市民ミュージカルを起点に、多様な表現の場へ

起点となったのが、平成28年度に総勢60名の市民キャストにより制作した東温市民ミュージカル「城ノブ～愛媛のマザー・テレサ～」である。坊っちゃん劇場の協力により、市民も忘れかけていた偉人「城ノブ」に光を当てることができ、その波乱万丈な生涯と一途な思いが表現されたミュージカルは、会場となった坊っちゃん劇場の満員の観客を感動に包むこととなった。それから3年後。出演者の中から全国的なスカウトキャラバンで頂点に輝くスターが誕生したことは、長引くコロナ禍の中で大変明るいニュースとなった。

平成29年度には、より多様な表現活動を可能とするための拠点として、坊っちゃん劇場に隣接する商業施設内に、東温アートヴィレッジセンターを整備した。小劇場「シアターNEST」、多目的稽古場「リハーサルホールNEST」、交流スペース「アトリエNEST」の3エリアからなるこの施設は、文化芸術を通じた交流機会の拡大を図り、地域の活性化に繋げることを目的として、平成30年4月に開館した。

ミュージカル・ガラコンサート
「SHALL WE SING?」

ここを拠点として、平成30年度からはアートヴィレッジ構想専属の地域おこし協力隊が専門分野のディレクターとなり、演劇、ミュージカル、音楽、ダンス、落語、マジック、コントなど多種多様な舞台芸術の祭典「とうおんアートヴィレッジフェスティ

東温市民ミュージカル
「城ノブ～愛媛のマザーテレサ～」

東温キッズミュージカル
「明日を信じて」

バル（2018/2019/2020）」を開催し、毎年約3，000人が訪れるようになった。

これが呼び水となり、同センターの来館者数は初年度約11，000人、2年目約15，000人と増加傾向にあり、芸術活動の拠点として浸透してきていることを肌で感じている。

戯曲賞で全国に門を開く

このフェスティバルの中で、全国の舞台関係者に創作活動を通じて直接関わってもらおうと企画したのが、平成30年度に初開催した「TOON戯曲賞」である。

全国から応募のあった45作品の中から、岡山県在住の守安久二子氏が都市と地方、家族のあり方を描いた「草の家」が見事大賞を受賞した。この戯曲賞により、埋もれてしまうかもしれなかった才能を掘り起こせたことは、舞台芸術の聖地化を目指す上で、大きな価値を持つことになるだろう。

令和元年度はこの「草の家」の舞台化に取り組み、令和2年2月、シアターNESTで無事上演することができた。制作に当たっては経験豊かな演出家を香川県から迎えた一方、出演者や照明、音響などについては、東温市で活動する人材に拘った。

TOON戯曲賞2018大賞決定公開審査会

多くの地元演劇人がボランティアスタッフとして名を連ね、全員が一つのチームとして進めた創作と戦略的な広報は、チケット販売にも直結し、追加を含む全5公演が前売り完売、総勢400人以上の満員のお客様に来場いただき、シアターNEST開設以来の成功公演となった。その後、この作品は東京の著名劇団も上演するなど、全国に展開している。

公演終了後、多くの関係者から戯曲賞の継続を望む声をいただいている。もちろん、この成果を受け、今後の継続を考えていくことになるだろう。ただ、私は地域活性化の取組全般において、「継続性」だけに価値を見出すことは危険であると考えている。開催そのものが目的化した瞬間、そのイベントは形骸化したものになるからである。形よりも「志」の継続や発展性を重視し、ゼロベースで思考を重ねていきたい。

TOON戯曲賞2018大賞演劇公演「草の家」

girandole-近藤林内物語-①

girandole-近藤林内物語-②

質の高い関係人口が未来を創る

舞台芸術は、1つの公演を成立させるために、何年、何か月もの時間を要する。その中で、集客数や売上額だけでは見えにくい、質の高い関係人口が創出されていることは間違いない。「芸術は社会の役に立つのか」この問いに対し、5年間携わった担当者として「役に立つ」これだけははっきりと言える。外にも出られず、コミュニケーションもリモートで。そんな昨今だからこそ、芸術を通じて地域や考え方、世代の壁を越えて人々が繋がることで、次々と市民主体のプロジェクトが積み重なり、束となってまちづくりの力となっていく。東温市がこれからもどんどん豊かで、面白いまちになっていくことが、持続可能な地域社会を構築し、地方創生を実現する近道だと思っている。

津軽三味線コンサート「結」